第 22 回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

秀 作

お金を稼ぐことの意味

岡山県・岡山県立総社南高等学校　２年　尾﨑　葵

夏休みに入って、母に「会社でアルバイトさせてくれん？」と頼んでみた。私の実家は児島で縫製会社を営んでいる。７月からは秋物切り替えが始まり、会社の中はとても忙しい。母はきっと大喜びで私の申し出を受け入れてくれるだろうと、私は心の中で２ヶ月分の給料の計算を始めていた。しかし母からの答えはノーだった。

「今年は塾の夏期講習も申し込んでいるし、部活の夏合宿だってある。宿題も山盛りで、お小遣いが欲しいからといって、全部出来るの？アンタ仕事を舐(な)めてない？」と怒られた。その後も女同士の本音のぶつかり合いでケンカになったが、結局母から会社で働かせてもらえる許可は降りなかった。

私は母と大ゲンカしてもアルバイトをしたかったのはこんな理由からだ。夏休み前に同じ中学の友達と駅で偶然一緒になり、友達がバイトを始めたことを知った。旅行に行く、服も買いに行く。オシャレなバッグを持っていて、ネイルもメイクもしていて、遊びにだって自分の気分次第で行けて、いいなぁという単純な理由だった。が、私だって毎日忙しい母に代わって「役に立ちたい」という思いだってあったのに、頭ごなしに怒られて正直腹が立った。学校ではアルバイトが禁止されているので、家のお手伝いという理由で堂々とアルバイトしてやろうと思っていたのに結局あてが外れてしまった。

また、私がアルバイトをする理由の一つは会社で働くのが好きだからだ。私の住んでいる児島は古くから繊維産業が盛んな街で、今70代の女性の多くは親元を離れ、地方から中学を卒業して縫製工場へ働きに出てきた金の卵たちだ。会社へ行くと、おばちゃんたちは地方の珍しいお菓子をくれて、大事にしてくれる、私にとって会社は居心地の良い場所だった。そして、アグレッシブに働く女性たちはいつも輝いていた。腕一本で一時代を築いた自信と誇り。男性に負けない経済力を持ったことで児島の女性はみな元気で若々しく強い。母方の

©J-FLEC2024

祖母は専業主婦で全く違うタイプの女性なので、同じ女性でも経済力を持つと、こんなにも違うんだ、女性が仕事を持つと意味、人生を自分で切り開いて行く逞(たくま)しさを子供ながらに感じていた。

会社のおばちゃんは皆私に対して優しい。たぶん一族の娘だからという皆さんの贔屓目(ひいきめ)もあったが、「どんな作品が出来たんで？すごいな。」と褒められると嬉(うれ)しくなった。私のモノづくりの感性はこの児島で育ったといっても過言ではない。小さい頃から糸や布を触るのが大好きで、色とりどりのウーリーを並べていくのが私の仕事だった。またおばちゃんたちがミシンを踏むのを見るのも好きで、パズルをはめるようにキレをくるくる回してミシンをかけると、製品が魔法のように仕上がっていく様子を見るのも感動的だった。会社で働く女性はみな仕事師で「働くというのはお金を稼ぐだけではない」ということを学んだ。休憩時間も丁寧に糸くずやほこりをとって、ミシンを掃除し、油を差し、整理整頓を始める人。フライスを折って準備をする人、間違えた製品をほどいている人。仕事に関連することを休憩時間まで使って、つらくないのかなと思っていたが、母から意外な言葉が返ってきた。

「ミシンの目調子整えるんは職人の基本。いつも完璧なスタートが切れるように準備しとくのがえんよ。」と。ミシンが上手い人ほど、熟練工ほどそれが出来ているのもよくわかった。もうすぐ後期高齢者の方も「生涯現役。生涯学習じゃ。」と新しいサンプルを縫う時に話していたのが印象的だった。

確かに私はまだお金の価値、仕事の意味を本当の意味で理解はしていないと思う。しかし、会社で働く人を見て、お金を稼ぐ意味、心と経済のゆとり、女性の自立、すべてが自分の人間育成や学びに繋(つな)がっているんだなと感じた。母の言葉を受けて、まだまだ未熟な私のやるべきことは勉強だと改めて思った。

そして、私はこれから進路を決める際に、子供の頃から好きだったこと、このテキスタイルの世界へ踏み出そうと改めて思った。今は志望校合格へ出来ることを自分なりに頑張っていこうと思う。

©J-FLEC2024